

イベント

しめっちカフェ

会場はこちら。オンラインでも開催します。

bokashi



しめっちカフェ担当の行方です。いつもご拝読ありがとうございます。

湿地の生態系を活用した防災・減災 (Eco-DRR) をテーマに講師を招き2月から5月まで開催中です。

- 第1回 (2月8日開催) では、北海道博物館学芸員の表 溪太さんを招き、「湿地の生物多様性と希少種」をテーマに、サハリンでの調査や湿地の希少種の生き物、博物館での展示についてお話を聞きました。
- 第2回 (3月15日開催) では、東北学院大学准教授の目代 邦康さんから、「湿地の埋立て・干拓地における震災時の液状化について～河北潟の調査結果から対策について考える」をテーマに、能登半島での調査や液状化の実験と湿地の役割についてお話を聞きました。
- 第3回 (4月12日開催) は「湿地の保全に地図情報を活用しよう～『湿地マップ』づくりで保全と防災～」。



しめっちカフェのアーカイブはこちら



info.

第4回 (2025年5月24日開催予定) は、「グリーンインフラの未来(仮称)」をテーマに、中村 太士さん (北海道大学名誉教授) と鎌田 磨人さん (徳島大学教授) の対談を企画しております。ぜひご参加ください！

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めています。常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集！ 一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

● 正会員

対象 当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。

年会費 5,000 円

● 賛助会員

対象 当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メーリングリストでネットワークの情報が提供されます。

年会費 5,000 円 (団体) 1,000 円 (個人)

● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



お問合わせ・お申込み

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (しめっちネット)

✉ ishikari.wetland@gmail.com ☎ http://ishikarigawa-net.com/

📍 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 405 号室



しめっちネットのHPで最新情報も見てね！



通信

vol.11

May 2025

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク ニュースレター

The Shimecchi Report

美唄湿原フォーラム2024

ナニソレ？ ビバイシツゲン！



かつての石狩川流域に広がっていた大湿原の数少ない残存湿地の中で、最も大きい「美唄湿原」。そんな美唄湿原の魅力と価値、そして現状を多くの人々に知ってもらうため、しめっちフォーラムのスピノフ企画として「美唄湿原フォーラム2024 ナニソレ？ビバイシツゲン！」を開催しました。

基調講演には、「美唄湿原の魅力」と題して新田紀敏さん (北海道立総合研究機構フェロー) に美唄湿原を特徴づける植物について紹介していただきました。その後、事例紹介として、黒松内町が有する歌才湿原、登別市が有するキウシト湿原において、それぞれ自治体と市民が行っている取り組みについて高橋興世さん (黒松内町企画環境課) と原田綾さん (NPO法人キウシト湿原・登別) にご紹介いただき、石狩湿原の残存湿地の現状とその保全を目指したしめっちネットの取り組みについて鈴木玲代表から紹介しました。

事例紹介の最後には、宮島沼で活動するジュニアグループ「マガレンジャー」が、倶知安町の鏡沼湿原を訪問した経験や現在取り組んでいる活動について紹介してくれました。

パネルディスカッションでは、日本湿地学会会長の矢部和夫さん (札幌市立大学名誉教授) もお招きして、湿原を保全し、活用していくコツなどについて議論を深めることができました。また、閉会の挨拶では、主催者を代表して桜井恒美唄市長からコメントがあり、力強いメッセージをいただきました。

当日は現地ガイドも予定していたのですが、残念ながら雨天のため中止となりました。今年はそのリベンジ開催を計画しています。美唄湿原の保全に向けた取り組みも続けていきますので、チェックしててください。

フォーラムの様子はYouTubeでアーカイブ配信されていて、要旨集には多くの湿原の専門家から寄せられたメッセージ集も掲載されていますので、以下のサイトを通じて、ぜひ一度ご覧ください。

▶ 【美唄湿原フォーラム2024】ナニソレ？ビバイシツゲン！アーカイブ



宮島沼の会



春が近づき、周辺の田んぼの雪解けが進むと宮島沼はマガンなど多くの水鳥でにぎわいます。マガンは宮島沼でしばしの休息の後、極北の繁殖地に向かう渡り鳥です。宮島沼の会では、そんなマガンに発信機をつけ、一年の暮らしを追跡する調査を行っています。今年は、マガンの追跡調査の結果を多くのみなさまにもご覧いただくためのホームページを公開する予定です！

5月上旬にマガンが渡った後には、田んぼに水が入り、石狩川の河川敷の小さな水たまりにはエゾアカガエルやエゾサンショウウオの幼体が動き回り、防風林にはかつての石狩湿原を彩った花々が咲き誇る季節がやってきます。宮島沼の会では、それぞれで田んぼのオーナー制度、両生類の産卵調査、防風林の外來植生管理などを行っています。エゾカンゾウが咲き誇る防風林の林床にはびこるオオアワダチソウの抜き取りなどにぜひご協力ください。



北海道希少生物調査会

北海道希少生物調査会は動物調査を仕事とするプロ調査員により立ち上げられた任意団体です。希少ヘビのシロマダラをはじめ、天然記念物オジロワシ、札幌圏のコウモリ類などを調査対象としているほか、啓発イベントにも積極的に関わっています。北海道には自然環境に関わる問題が山積んでいます。しめっちネットのような横断的ネットワークは北海道において貴重な存在であり、数のチカラ（声の大きさ）で少なからぬ世論を動かせる可能性を秘めていると思います。



NPO 法人人まち育てI&I



私たちは、湿地の文化や食の体験を通じて、その魅力や大切さを伝え、湿地ファンを増やす活動を行っています。しかし、多くの市民は湿地について知る機会がなく、関心も低いため、保護の機運が生まれず、湿地は人知れず消失し続けています。かつては、神社や家庭で近隣の湿地からスゲを刈り、メ縄を綯う風習がありましたが、湿地の減少や過疎・高齢化、さらにコロナ禍の影響で衰退しています。そこで私たちは、スゲ群落を見つけ、収穫からメ縄づくりまでを学ぶ活動を継続しています。今年はメ縄用のスゲを収穫しやすくするための「スゲ田づくり」を本格化させ、メ縄づくりを教えられる人材の育成にも注力します。

また、食文化の継承にも力を入れています。育てたエゾカンゾウの花や蕾を採取し、薬膳の専門家とともにレシピ開発や食の体験会を行っているほか、ヒシの実を採取し、アイヌ文化の専門家に料理を教えていただいたりしています。

さらに、湿地の魅力を地域活性化と持続可能な形に結びつけるため、「産業化」「収益化」を目指し、マコモダケ栽培の拡大や観光業者と連携した体験プログラムの開発、質の高いガイドの育成にも取り組んでいきます。



手稲さと川探検隊



地域の子供達そして親子の自然体験の場づくりを主な目的として発足し、昨年20周年を迎えることができました。昨年は、ボランティア学生だった青年が父になって家族連れで参加してくれたり、小学生だった子が大学生になってボランティアとして来てくれたり、我々も歳を重ねたなあと思う出来事が増えました。

活動は、年8回程度の星置川や手稲山麓での「生きものさがし」という自然体験活動のほか、カエデ樹液採取やアイヌ文化体験、野鳥や植物のモニタリング調査等を実施しています。新たな活動として、冬眠から覚めて飛び立つコテングコウモリを探したり、手稲丸山都市環境林での活動準備もしています。

自然共生サイトとして登録された手稲山林は、大都市に隣接する貴重な自然であり、流れ出る川など命を育む水も生み出しています。より多くの親子に自然の魅力との付き合い方を知ってもらえるよう、ベーシックな活動に人目を惹きそうな活動を織り交ぜて、今後も活動していきたいと思っています。

それと同時に、学校に馴染みにくい子どもの参加も増えており、その子ども達と楽しむことや、すり減ったオトナ達の癒やしの場を提供することも大切な役割と感じているこの頃です。

新篠津ツルコケモモを守る会



わたしたち新篠津ツルコケモモを守る会は、2015年秋に新篠津村でポグ(高層湿原)が辛うじて生き残っていることが判明したことを契機に、2016年に結成されました。かつての石狩大湿原の一部、石狩川右岸に約7千ヘクタールの威容を誇った篠津湿原の生き残りであるこの湿原には、ミズゴケ類、ヤチャナギ、ツルコケモモ、モウセンゴケなどがササの下で細々と命を繋いでいます。残念ながら、地権者や近隣住民の開発行為によって、当会の原点となった湿原は乾燥の速度を増しており、前途はお世辞にも明るいとは言えません。それでも、年数回の見学会や裸地へのノハナショウブ播種などを実施し、残存湿原を未来に残していくために何ができるかを参加者と一緒に考えております。また、しめっちネット主催の行事への積極的な参加や運営への協力を、会員に呼びかけております。

今年度は、新篠津村内で唯一操業中の泥炭採掘場を含む数か所の見学会に加えて、新十津川町の山中の“地図に無い湿原”徳富南湿原の見学会を6月15日(日)に実施いたします。皆様の御参加をお待ちしております。



しめっちネット

会員
団体

2025年の活動

しめっちネットには、現在8団体が正会員として登録されており、活動を行っています。
近況と今後の予定について、団体に伺いました！

うみいく



うみいくは、親子で石狩の自然を学び楽しむ団体です。「楽しい」経験は、その場所への「愛着」に変わり、「大事にしたい」という気持ちを育むという考えを基本としています。年長から高校生までの子どもとその保護者が在籍しています。一年をとおして様々な活動をしています。活動を始めて、10年以上が過ぎました。小学生だった子どもは大学生になりボランティアで活動を支えています。子どもが卒業しても、スタッフとして活動してくれる保護者の方も大きな存在です。

数年前から発達が気になるお子さんを対象とした自然体験指導を始めました。基本的な知識が必要だと思い、代表が保育士と支援教育専門士の資格も取得しました。毎回、驚きの連続ですが、関わる中で分かったことがあります。それは、自然と子ども達の相性は良い！ということです。外の広い環境はそこにいるだけで、不要な刺激を少なくしてくれているように感じます。言葉の選び方や、伝え方の工夫は、子どもが活動を最後まで楽しく終えることができるかに大きな影響を与えることを学びました。この視点は、全ての子ども達に当てはめることができ、今後はインクルージョンな自然体験活動の場を作っていきたいと考えています。

令和7年度は、定番のビーチクリーンやワカサギ釣りはもちろん、行ったことのない濃屋(ゴキビル)や望来(モウライ)の海辺で磯遊びや海水浴をする予定です。



認定 NPO 法人カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク



本会は、札幌市北区あいの里地区を中心に札幌唯一の湿原である篠路福移湿原の保全・保護活動をはじめ身近な自然を守る活動を行っている特定非営利活動法人です。

生命の尊さと自然の大切さを学び、豊かな自然を子ども達に引き継ぐことを目指しています。今年も自然観察ウォークや田んぼの田植え・稲刈り体験、トンボのための環境整備活動など様々なイベントを開催する予定です！ぜひご参加ください！

いしかり海辺ファンクラブ



今年の冬季間の活動では、3月にカシワ海岸林のスノーシューによる観察会を実施しました。2023年に新種認定されたカシワハスズタマバチの幼虫が観察でき、みんなで興奮です。2025年度の環境省「モニタリング1000里地植物調査」は13年目を迎えます。はまなすの丘公園サイトと三線浜サイトの2箇所です。海浜植物保護活動として実施している「海辺パトロール」も5年目で継続。三線浜の車両侵入規制エリアにおける侵入防止杭の伸展作業に、毎月汗を流します。「海辺のプランクトンとナギサ生物観察会」は通算48回を数え、2025年度は50回目を突破予定。蓄積したデータをもとにイベントへの出展も計画しています。「石狩海岸自然観察ウォーク」では豊富エリアの観察場所を新たに追加してより多くの自然にふれあいます。銭函海岸と併せて4回実施予定です。国際海岸クリーンアップでは国際規格での分別で海浜ゴミの実態調査を継続実施。2025年度は5年目となりますが、データが蓄積されてきたので、ゴミの傾向分析もできるようになってきました。会員の高齢化もあり、なかなか発展的な活動とはなりませんが、年間30回ほどの活動日を維持しています。

